



岡山市区づくり推進事業報告書
(地域活動部門)

令和 3年 4月 19日

岡山市長 大森 雅夫 様

フリガナ 団体名 とみやま助け合い隊

所在地

連絡先

代表者役職・フリガナ氏名

実施分野	(該当の分野を○で囲んでください) ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名	とみやま助け合い隊
事業実施区域 (小学校区)	富山学区
①事業実施内容	地域住民の日常生活上の困りごと解決のための支援システムを提供する。 1. 本システムの概要 (説明) ①困りごと支援依頼者 → コーディネーターにTEL ②コーディネーター (5名。週単位で交代) → サポーターを斡旋 ③サポーター (3月末、49名が登録済み) → 支援を実施 ④依頼者 → サポート料を支払う ⑤サポーター → 支援の終了時に支援内容・時間・料金等を報告 ★ 特殊な技術を要するもの、危険を伴う作業は対象外 ★ 有料・基本料金30分まで300円、以後10分増すごとに100円追加 (一人に付き) ★ 屋内作業・原則2人体制で行う。 (添付資料) ・サポート写真 2枚、サポーター会議風景 ・ポスター ・とみやま助け合い隊活動ニュース 第2号

② 解決を目指した課題	課題・・・住民が抱える日常生活上の困りごとの解決 住民は世代を問わず、日常生活上の各種困りごとを抱えている。 これらの困りごとを解決できなければ、住み慣れたこの町で住み続けられない。 ★ 例 ・高齢のため、草取りや庭木の剪定ができない。病院への通院、買い物が自力でできなくなった。 ・急な仕事の都合で、老親を病院に連れていけなくなった。等々
③ 目的・目標の達成状況	① 地域課題の解決 ⇒ 1年間の支援実績（3月末）251件 内訳 ・付添（病院・買い物）77 ・ゴミ出し64 ・買い物代行51 ・庭の手入れ39 ・掃除・片付け4 ・修理3 ・その他13 ② 令和2年度の目標と達成状況 ・支援実績 目標200件 → 251件（+51） ・サポーター登録 目標70人 → 49人（-21） ・財政基盤強化（特別会員確保）5会員 → 0（-5） ③ 実施効果 ・利用件数も増えて、順調に定着しつつある。 ・依頼者から「助けてもらって、感謝！感謝！」、サポーターから「あんなに喜んでもらえるとは・・・」などの電話や手紙をもらうことがある。
④ 企画等の工夫と情報公開	※実施にあたって工夫したこと、また住民への活動の周知広報の取組とその評価を記載してください。 ① 企画運営上の工夫 ・支援依頼について、全件記録している（依頼者名、サポーター名、依頼内容、サポーター料等）。システムのレベルアップには、データを基にした不断の検証が欠かせない。 ・毎月（原則）、コーディネーター会議を開催、上記記録をもとに本システムの利用状況や課題について、コーディネーター間で共通認識を持つと同時に、改善策を協議している。 ・隔月に理事会（小地域ケア会議と兼ねて）を開催、助け合い隊の現状やコーディネーター会議の内容等を報告するとともに、必要に応じて今後の運営について協議している。 ・年1回、サポーター会議を開催。本システムの理念や現状、今後の計画などにつき共通理解を図るとともにサポーターの立場から見た課題の発掘に努めている。 また、サポーター宛に年賀状・暑中見舞いを出状する等、事務局とのコミュニケーションに留意している。サポーターのモラルの維持には、平素のコミュニケーションが大切と考えている。 ② 広報 ・住民への広報を重視している。 ・広報紙「とみやま助け合い隊活動ニュース」を発行。全戸・配布。 （年・2回発行、全戸 配布、A3、片面印刷、二つ折り、カラー） - 編集方針・・・読むより見る を重視 - 運営の透明性を確保・・・決算報告等掲載 ・機会あるごとに、学区主要団体へのPRにも努めている。（例：説明機会をもらう等） ・おかやまSDGsアワード2020を受賞したにつき、記念ボールペンを作成、サポーターや支援依頼者及び関係先に配布した。 ③ 他地区への情報提供 ・当システムについて他地区より「くわしい説明を聞きたい」「情報交換したい」等の要望があり、システムの概要や設立の経緯、運営上のノウハウや使用ツール等につき積極的に情報を提供した。 例：岡輝地区、足守地区、牧石地区、平島地区、旭竜地区、 十字屋グループ（真庭市）、宮部上地区（津山市）

⑤ 次年度計画	・利用件数増加 ⇒ 目標 300件 (令和 3年度) ★多様性の視点を検討する。従来の支援は、高齢者がほとんどである。若年者・障害者対象の支援メニューを開発する。 ・サポーター増員 ⇒ 目標 70名 (1月末 47名) - 併せて、サポーターゼロ地区(7町内)の解消を目指す。 ★多様性の視点を検討する。 - 例：家族＋軽度の認知症患者(ペアーを条件に登録) - こども＋保護者(ペアーを条件に登録。春・夏・冬休み限定) ・財政基盤強化 - 特別会員(年会費 1万)確保 ⇒ 目標 5会員
⑥ 事業実施者の評価・感想、審査会での助言及び意見を踏まえた改善	※事業を実施することを通じて持続可能な地域づくりを進めることができたか、持続可能な地域づくりを担う人づくりにつながったか、地域の課題解決力は高まっているか等、本事業についての自己評価をご記入ください。 1・本システムは、順調に定着しつつあると考えている。 高齢化が進む中、体力や運動能力の低下は、庭の整理や片付け等自宅の管理にも支障をきたす。また、各種のインフラは、車社会を前提に構築されており、免許返納後の日常生活は不便極まりない。 住民は、種々のこまり事に直面する。かかる状況でこそ、本来は「共助」の出番であるが、今や身近に(濃密な人間関係の中に)「共助」を求めることが難しくなっている。 ★「核家族化」や「急速な団地開発」、「夫婦共働き」や「ネット社会」等の社会状況の変化は、地域の絆や連帯感を希薄化させてきた。かつてあった「向こう三軒・両隣」的人間関係は、もはや期待すべくもない。 当システムは、いわば「共助」のシステム化(濃密な人間関係を前提としなくてもよい)を図ったものである。気軽に電話をすれば、最寄りのサポーターが駆けつけてきて、困りごとを解決してくれる。料金(格安)さえ支払えば、それ以上にお礼をどうするか等について思い悩むこともない。 この点が、評価されたものと思う。 2・自助・共助の意識を高揚し、住民自らがまちづくりに参加する。 自助を基本としつつも限界を超えた部分(困りごと)については、地域住民が支援する。(住民は、サポーターとして「共助」システムに参加する) この積み重ねが、よいまちを作る。サポーターのみならず、支援依頼者もまちづくりへの参加者である。 3・やさしさと素直さの表現機会を提供する。 本来、人は「やさしさ」と「素直さ」を併せ持つ。他人の困りごとをサポートすることは「やさしさ」の表現であり、サポートに対し「感謝」するのは「素直さ」の表現である。住民の「やさしさ」と「素直さ」が随所に見られる、そのようなまち「富山」を目指したい。

○事業決定時での審査会意見（区づくり推進事業審査会からの助言・意見の内容） 【R2年事前審査・審査会意見】 ・まだ始まったばかりですが、前進しているようです。これからを期待しています。 ・地域のニーズに合った事業であり、サポーターの資質や法規制等をクリアしてスタートされていることに敬意を表したいと思います。 ・需要を感じることができたので今後も必要とされるよう工夫してほしいと思います。 【R1事後評価・審査会意見】 ・地域のニーズに対応した先行的かつおもしろい取組であり、これから必要となる素晴らしい活動です。様々な課題が今後とも出てくると思われるが、PDCAを積み重ねることで、地域を支える組織として成長してほしいです。 ・病院への付添や買物代行など、家族が手伝いたくてもできないことをサポートしてくれる人がいるとありがたいと思います。 ・介護保険との関係が気になります。	
○上記の助言及び意見を受けての事業への取り組み等 【R2年事前審査・審査会意見】 ・順調に定着しつつあると考えております。3月末実績 251件 庭の手入れ、PC、付添、買い物代行、ゴミ出し、洋服リフォーム、掃除・片付け、修理等ですが、支援できる分野は、たくさんあるはず。今後は「このような支援もできる」というメニューを開発、逆提示していきたいと考えております。 【R1事後評価・審査会意見】 ・人が、本来持っている「やさしさ」(サポート)と「素直さ」(感謝)の表現機会を提供するものでもあります。これらが随所に見られる！そのようなまちづくりを目指しております。 ・運営上の課題は、毎月のコーディネーター会議で議論。必要に応じて、運営細則を改定し、サポーターにもその旨を連絡しております。なお、サポーター会議も開催、当システムの理念や運営について共通理解を図っています。 ・本システムの役割は、本来、介護保険の適用の及ばない分野をサポートとすることにあります。現実には、ケアマネジャーからの紹介案件（ケアマネジャーとのタイアップも進めておりますので）では、「ここまでは、介護保険でできるが、それ以上はできないので、助け合い隊にサポートしてもらえないか」などのコメントもいただいております。今後とも介護保険とのすみわけを明確にしつつ、サポートを実施してまいります。	助言等の内容について、事業へ反映できましたか。 I できた II ☒ おおむねできた III 一部できなかった IV まったくできなかった V 改善意見がなかった

⑧事業実施経過

※時系列に沿ってご記入ください。事業実施のための準備や打ち合わせ会合日などもご記入ください。補助事業実施決定前の準備活動についてもございましたらご記入ください。

年 月 日	内 容
<u>令和2年</u>	
・ 4月 2日 19日	役員会中止(コロナ対策) 会計監査
・ 6月 4日 4日 10日 18日	年次総会兼役員会 コーディネーター会議 OHK TV 取材 [] (依頼者) 山陽新聞取材 [] (依頼者)・ [] (サポーター)
・ 7月 12日	コーディネーター会議
・ 8月 2日 6日	旭竜助け合い隊準備会にて説明 役員会議・コーディネーター会議
・ 9月 29日	岡山市 取材。 [] (依頼者)・ [] (サポーター)
・ 10月 1日 15日 24日 26日 29日	役員会議・コーディネーター会議 「とみやま助け合い隊活動ニュース第2号」発行、全戸に配布 サポーター会議(1回目) 参加20名 ★同一内容で2回実施。サポーターは、いずれか一方に参加すればよい 平島健康福祉協議会来訪、懇談 サポーター会議(2回目) 参加19名
・ 11月 24日	RSK 取材 [] (依頼者)・ [] (サポーター)
・ 12月 3日 4日 19日	役員会・コーディネーター会議 岡輝公民館にて説明会 おかやまSDGs アワード 受賞 表彰式に参加
<u>令和3年</u>	
・ 2月 2日 4日 5日 16日	山陽新聞取材 [] (依頼者)・ [] (サポーター) 役員会・コーディネーター会議 牧石地域づくりの会にて説明会(於：牟佐公民館) 十字屋グループ来訪・交流会、コーディネーター会議
・ 3月 8日 28日 31日	役員会・コーディネーター会議 津山市 宮部上町内会8名来訪 助け合い隊について説明、懇談 [] (コーディネーター兼サポーター) 退任 (県外に転居のため)

⑩ 収 支 決 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	内 容
岡山市補助金	79,000	79,000	$193,729 \times 50\% \div 96,800 \rightarrow 79,000$
実施団体負担金	29,000	30,729	
参加者負担金			
協賛金(広告料)		20,000	
寄付、他収入	50,000	14,000	寄付
自治振興会補助金		50,000	
計	158,000	193,729	

◆ 支 出

単位:円

費 目	予 算 額	決 算 額	内容(必ず記載してください)
①消耗品費	21,000	70,635	<注>
②食糧費	8,000	500	各費目の支出明細については、
③印刷製本費	72,000	28,290	添付の「費目別支出金額」及び
④燃料費			「領収書」を参照願います。
⑤光熱水費			
⑥通信運搬費	52,000	58,964	
⑦広告料			
⑧手数料			
⑨使用料・賃借料			
⑩原材料費			
⑪委託料		15,000	
⑫工事請負費			
⑬報償費		4,000	
⑭保険料	5,000	12,140	
⑮旅費		4,200	
⑯その他			
計	158,000	193,729	

※様式に入力される場合は、収入・支出欄は、エクセルのワークシートになっています。欄の上でダブルクリックして、ワークシートを表示させてから入力してください。